

報 館 おおなだ

あいさつで
おおなだの里に
ふれあうゆ



第52回 新春サークル発表会

令和6年
2月3・4日



そばの振る舞い

ステージ発表が終わると、多くの人が長い列を作り三水会の皆さんが打つそばに集まりました。三水会の皆さんは午前中から準備にかかり、200食ものそばが用意されました。普段より、こね・のばし・切り・ゆでを鍛錬されたセミプロ級のそばがふるまわれました。和室の休憩所はそばを食す人でいっぱいになり食べる場所がなくなるぐらいでした。最後にそば湯もいただき締めました。

土曜日の午前中に準備を行い、午後から公開となりました。日曜日は終日公開で、ステージ発表・そばの振る舞いも加わり、寒さにもかかわらず両日で210人もの方々にお越しくださいました。

岡田には公民館を中心に様々なサークル活動があります。発表の機会があることで、自己表現が上達し、仲間同士の繋がりがより深まっていくこととでしょう。

岡田公民館において、コロナ禍以前の形で「新春サークル発表会」が開催されました。作品展示に加え、昨年は行えなかったステージ発表・手打ちそばの振る舞い・健康チェックコーナー・なんでも介護相談会が行われ、以前の賑やかさが戻ってきました。

会場では見知った人は当然話しかけていない人も会話を弾みました。作者の名前を見ながら、知人の隠れた特技を知り感心するばかりでした。興味ある作品の作者の方と直接お話をしたら面白いだろうなとも思いました。

作品展示

3つの会場に11の団体の作品が展示されています。主なものは、岡田小学校児童の絵画・書工作、2つの写真クラブの作品、絵手紙、陶芸、椅子などの木工、猟友会の動物はく製、岡田まちおこし協議会による切り絵、歴史研究会の岡田再発見マップ、福祉ひろば利用者の作品など、多彩な作品が並びました。



健康チェックコーナー

健康づくり推進員会の皆さんに健康チェックをしていただきました。体組成計に乗り年齢を入力してもらおうと、結果が打ち出されました。数値の中で注目すべきは、脚点と骨量と教えていただき、脚点は「良」と出て一安心。脚点で歩いているかどうかわかるそうです。続いて握力の測定、その値で全身の筋肉量を推定しフレイル予防につなげていくそうです。二日間約80人の方が測定されたそうです。



ステージ発表

ステージ発表は、ずずらんの会のハンドベルのすてきな音色が始まりました。歌が好きだという想いを歌声に響かせた岡田童謡唱歌を楽しむ会、オール神沢。ゆったりとした呼吸に合わせ、優雅にのびのびとした動きを披露した太極拳のひまわりとはまなす。力強く、勇壮なバチさばきで太鼓の音色を会場に響きわたらせた岡田太鼓連。さらに、田溝池のほとりを練習会場にしているサブニユマは、軽快に響くジャンベ(太鼓)に合わせ、躍動する西アフリカのアフリカンダンスを披露しました。最後は神沢町会の合唱団と会場の皆さんで「ふるさと」を歌い、出演した皆さんと共に「ふるさと岡田」の元気を味わえた発表会でした。拍手。



地域のアイドル

岡田ぼっとニュース

東区

体をこすりつけ、何気にごろりと中学生たちにみせたあの動きを何のためらいもなくするのである。通りかかった小学生も中学生も散歩中のご夫婦も、お姉さんもおじさんも足を止めて思わずなでていく。

学校帰りの中学生の男子グループが道ばたに座り込んで戯れていた。ここは東区公民館を西に進み、田中の道祖神の手前、その四辻を北に曲がれば岡田神社という場所である。彼らの真ん中には、一匹の白黒の猫が



の宅地が造られ、岡田神社の南側には何軒もの住宅が建ち始めている。子供たちが多くなったことにも驚くばかりだが、ご近所で行き会う人たちも若い人たちが増え、「おつかいでございます」などと挨拶をかわすこともなくなってきた中で、ごろりんと今日も道ばたで寝転がる一匹の猫が地域の老若男女をつないでいます。

散歩中、どこからか尻尾を揺らしてシロがゆっくり現れた。喜んでくるといわけでもなく平然と何事もないうような仕草で近寄ってくる。そして、足下に

※小林政雄さん(東区田中)宅の飼猫です。

(東区 小林 秀行)

新春サークル発表会で夢かなう

展示のみが行われた一日目、2月3日土曜日のことです。妹のお昼寝の邪魔にならないように、父親と二人で見学に行った小学2年生に新春サークル発表会の感想を聞きました。

彼が一番に挙げたことは、何枚もの折り紙を立体的に組み合わせで作った「だるまさん」でした。福祉ひろばに展示されていたものです。お馴染みの赤色のものから始まり、全身がオレンジ色のもの、茶色のもの、ネコ型ロボットのよう青色のようなものもありました。展示の案内を見ると頂戴してもよいとのことだったので、一番愛着が湧くと言って彼が選んだのは赤色のだるまさんでした。

次に彼が興味を持ったのは岡田小学校の児童からの出品です。粘土で作ったと思われる人物だったり、彼が大好きなテレビゲームに登場する緑色の生き物だったり展示してあり、子どもたちの視点を垣間見ることができそうな作品でした。緑色の生き物の名前について、私はうろ覚えだったのですが、彼は自信を持って教えてくれました。

大人も子どもも楽しめる作品があり、親子ともに満足して家路につきました。自宅に帰った後、「前からずっと欲しかったんだよね～」といって、彼は筆ペンでだるまさんの両目を描き、大切に飾っておりました。



我が家の隣には小3の男の子がいます。まだ赤ちゃんのころ越して来ました。人懐こい子で、すぐに仲良しになり、散歩したり遊んだりしました。彼は一人っ子なので欲もなく、競争心もあまりないように思います。だからといって我がままではなく、とても躰のできている子です。

私といる話の中で、たくさん本を読んだり映画を観たり、スポーツをしたり、両親が様々な経験をさせているんだなと思いました。

少し教えてもらいましたが、なかなか難しい。でも楽しい。いつか一緒にステップを踏んでみたいなどと頑張っている私です。学校から帰ると教えてくれます。今日も東京ブリウギを歌いながら華やかなステップで楽しませてくれました。

生活雑記

かわいい隣人

神沢 小林 敏子

私は習い事としたら勉強のこ とばかり考えましたから意外でした。4つの中で私にも出来そうなピアノとタップダンスをやってみたくなりました。タップは80歳くらいの方も結構練習しているそうです。私も隣人です。